

10/
3

電気工事組合南宇和支部を代表して電気工事技能大会に出場
 株式会社岩村電気水道の緒方尚徳さんが優良賞を受賞



▲表彰状を手に笑みを見せる緒方尚徳さん

10月3日(金)、松山市のアイテムえひめで開催された令和7年度愛媛県電気工事技能競技大会に出場した(株)岩村電気水道の緒方尚徳さんが優秀な成績を収め優良賞に輝きました。

この大会は、県内各地区から推薦された屋内配線工事の優秀な電気工事が一堂に会して技能を競うことで、電気工事業に対する技術・技能向上と熱意ある若者への技術継承を目的とするもので、2時間半以内に課題どおりに施工を完了させる必要があります。

速さと正確さが求められるこの大会に出場するために、緒方さんは仕事終わりなど時間を見つけて練習に励んだと話し、「入賞できたことで仕事の励みになりました。今回の入賞で多くの方に電気工事の仕事を知ってもらい、若い方々にも興味を持ってもらえたなら嬉しい」と思いを述べました。

10/
18

2025年農林業センサス功績者農林水産大臣表彰
 統計調査員として23年活躍の廣瀬恵子さんが受賞

長年にわたる統計調査員としての功績が高く評価され、廣瀬恵子さんが10月18日(土)付けて2025年農林業センサス功績者農林水産大臣表彰を受賞しました。

廣瀬さんは平成14年に商業統計の調査員を務めて以来、国勢調査や経済センサスなど多くの統計調査に従事され、平成30年には県統計協会長表彰も受賞しています。

統計調査員の活動を通じて地域の実情や変化を感じてきた廣瀬さんは、「調査員を務めたことで、地域の進む高齢化や空き家・耕作放棄地の増加を感じる機会が多くありました。調査員の仕事は大変さもありますが、地域貢献という大きなやりがいもあり、元気なうちは今後も調査員を務めたい」と笑顔で話しました。



▲表彰状と記念品の金杯を受け取った廣瀬恵子さん

10/
29

NTT西日本株式会社と町が目指す災害に強い地域社会
 災害発生時における相互連携に関する協定締結式



▲左から NTT西日本(株)四国支店鈴木裕二郎支店長、中村維伯町長

10月29日(水)、役場本庁で災害発時における相互連携に関する協定締結式が行われました。この協定は、災害発時に町が所有する旧消防本部跡地の駐車場を活用してもらうことで、通信設備の早期復旧を図るものです。

NTT西日本(株)四国支店の鈴木裕二郎支店長は「大規模災害発時には通信障害の情報共有だけでなく、NTT西日本による災害復旧活動のための施設提供等、避難所の支援を行うことで、安全安心な暮らしの実現に向けて、取り組んでいきたい」と述べ、中村維伯町長は「町全体の防災力を高めることは極めて重要。災害に強い地域社会を築きたい」と応えました。

11/
1

整形外科医が教える!動ける人生の秘訣 第12回 あいなん医療研修会



▲研修会で講演を行う清水総一郎院長

11月1日(土)第12回あいなん医療研修会が城辺保健福祉センターで開催されました。

あいなん小児医療を守る会の活動報告、保健福祉課から町の骨粗しきょう症の現状についての報告、消防本部から町の救急現状と小児救急についての報告がありました。報告の後には、あいなん整形外科クリニックの清水総一郎院長から「整形外科医が支える”動ける人生”～ゆりかごから墓場まで～」と題し、子どもから高齢者までの疾患の説明や予防、治療などの講演がありました。

町出身のイラストレーターが生んだ愛されキャラ“妹ちゃん” 漫画『ほっぺがもちもちな妹ちゃん』の作者・海老原べにこさんをご紹介



町出身のイラストレーター海老原べにこさん。SNSで人気を集めた“妹ちゃん”が昨年ついに漫画化され『ほっぺがもちもちな妹ちゃん』を出版しました。今回は、漫画家として歩き始めた現在の活動や制作の裏側についてお話を伺いました。

海老原さんが「絵を描くこと」を意識し始めたのは幼い頃。好きなキャラクターを描いて家族に褒められた経験が原点と振り返ります。大学卒業後はITエンジニアとして就職しましたが、趣味として続けていたイラスト制作の依頼が増加。大きな仕事を受けたことが転機となり、「絵で生きていきたい」と決意してフリーランスの道へ踏み出しました。

今回出版された『ほっぺがもちもちな妹ちゃん』は、もともとSNSに毎週投稿していたイラストシリーズ。「漫画家になろうと思っていたわけではないんです」と海老原さん。“妹ちゃん”的魅力をもっと表現したいと考えていたところ、出版社から声がかかり、漫画化が決まりました。その後は隔週で漫画をSNSに連載し、1冊分が揃ったタイミングで書籍化となりましたが、異なる媒体への挑戦は苦労も多かったと話します。

漫画制作で最も苦労したのはストーリー作り。「イラストと漫画は考え方全然違うので、最初は本当に大変でした」と振り返ります。平日はイラストの受注制作があるため、漫画制作は主に休日や夜の時間に行っていました。海老原さんが、タイトなスケジュールの中でも更新を続けられたのはSNSで寄せられる温かいコメントの存在で「頑張ってよかった、と思える瞬間です」と笑顔を見せました。自分が生み出したキャラクターを「好き」と言ってもらえることは何より嬉しく、制作の励みになっていると話す海老原さん。今後については「もし機会があれば、自分の作品がいろいろな形で広がったら楽しいだろうな」という思いもあるそうです。「フィギュア化やアニメ化といった展開も、いつかできたら嬉しい」と穏やかに語ります。

最後に、海老原さんから同じ夢を目指す若い世代へメッセージ。「SNSにはいろんなチャンスが広がっているので、まずは作品を気軽に発表してみてほしいなと思います。自分もSNSで作品を発表したことが、今につながりました」と自身の経験を振り返りました。

地域から羽ばたく若きクリエイターの活躍が、これからも楽しみです。